

平成 27 年度第 2 回研修会報告

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館にて、平成 27 年度第 2 回研修会を開催しました。

今回は、「開発途上国地域研究を支える専門図書館－アジア経済研究所図書館の資料収集と提供活動－」をテーマに、二階宏之氏(日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館研究情報レファレンス課)の事例報告と、アジア経済研究所図書館の見学を行いました。

貴重な資料を取り扱う専門図書館の活動について発表いただき、非常に有意義な研修会となりました。



日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

日 時 平成 28 年 3 月 3 日(木) 15 時 00 分～17 時 00 分

会 場 日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

テーマ 「開発途上国地域研究を支える専門図書館－アジア経済研究所図書館の資料収集と提供活動－」

発表者 二階 宏之氏(日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館研究情報レファレンス課)

事例報告

「開発途上国地域研究を支える専門図書館－アジア経済研究所図書館の資料収集と提供活動－」

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

二階 宏之

“アジア経済研究所の基本理念として三現主義というのがあり、それは「現地語を用い、現地資料にあたり、現地に滞在して研究する」というもの”

アジア経済研究所図書館とは

アジア経済研究所図書館は、開発途上地域の経済、政治、社会等を中心とする諸分野の学術的文献、基礎資料、及び新聞、雑誌を所蔵する専門図書館です。無料で公開していただいてもご利用いただけます。1958 年に財団法人アジア経済研究所が新大手町ビルに設立され、その翌年にアジア経済研究所図書館の前身にあたる図書資料部が設置されました。その後、市ヶ谷移転(1963 年)、幕張移転(1999 年)を経て現在に至っています。市ヶ谷時代の図書館はスペースが狭く、閲覧席は 26 席しかありませんでした。当時は、近隣の大学から多くの学生が資料を求めに来館しました。1998 年にはジェトロとアジア経済研究所が統合しました。ジェトロ本部のビ

ジネスライブラリーがビジネス図書館、アジア経済研究所図書館は学術図書館という棲み分けで連携してサービスしています。ビジネスライブラリー内には「アジア経済研究所図書館サテライト」があり、アジア経済研究所図書館の資料を送付して閲覧することができます。



二階宏之氏
日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

蔵書概要(2015 年 3 月末時点)

図書と統計、製本雑誌を合わせて約 67 万冊になります。統計資料は約 113,000 冊で、そのうち人口・労働・住居に関する統計(主体は人口・住居センサス)が 21%(約 24,000 冊)を占めています。地図 54,000 枚、マイクロフィルム約 90,000 点、マイクロフィッシュ約 50,000 点などの特殊資料も所蔵しています。地域別所蔵状況を見るとアジア地域で 6 割程度を占めています。分野別では政治、経済、産業、法律などの社会科学分野が多くなっています。

アジア経済研究所の基本理念として三現主義というのがあり、それは「現地語を用い、現地資料にあたり、現地に滞在して研究する」というものです。この理念

に基づきアジア経済研究所図書館は多言語資料の収集にも力を入れてきました。最も多いのが中国語で 51,000 冊、朝鮮語が 25,000 冊、その次はアラビア語、インドネシア語などです。

資料収集

現地から直接資料を収集することが大きな特徴です。国内で収集が難しい一次資料や法令集などを現地で購入したり、現地から取り寄せます。また、開発途上地域の資料交換機関(約 1,000)からの寄贈資料も長年の蔵書構築に貢献しています。現地での資料収集は多くの苦勞を伴います。特に郵便事情が悪いと資料収集がスムーズに運びません。郵便局までの資料の持ち運びや梱包作業に多くの労力がかかります。その他、領収書を発行してくれなかったり、訪問を拒否されたり、手が真っ黒になったりなど、多くの苦勞を重ねてきました。こうした経験を踏むことで、現地事情の理解や現地とのネットワークを深化することができます。

コレクション

蔵書コレクションは地域や国ごとに特色があり、貴重な資料がたくさんあります。韓国の官報は 1948 年 9 月 1 日第 1 号から 1976 年 5 月 31 日第 7359 号まで所蔵しています。韓国では朝鮮戦争による焼失で、韓国国立中央図書館にも当時の原本は完全に保存されていません。韓国の社史・団体史は約 600 冊所蔵していますが、その多くはソウルの古書店から購入したものです。中国の地方誌は約 5,000 冊所蔵しています。中国では 1980 年代から積極的に省・県レベルで地方誌を編集してきて、アジア経済研究所図書館は恒常的に収集に努めています。インドの藩王国時代の資料は、元アジア経済研究所職員から寄贈を受け 1,000 冊近くにも及びます。戦前期資料

はアジア経済研究所設立当初に研究資料の不足を補完するために、戦前の欧米や日本で刊行された資料を収集したものです。アジア経済研究所図書館は途上国の新聞を収集しマイクロフィルム化してきました。現在は予算の都合上、ニーズの高い 16 紙に絞ってマイクロ化しています。地図はアメリカ陸軍編纂 5 万分の 1 の地形図や、インドネシア内務省編纂の 5 万分の 1 の土地利用図、旧ソ連軍参謀本部の全土地図などがあります。

ライブラリアンの専門性

アジア経済研究所図書館職員は地域別に業務を担当しています。地域別に選書からレファレンス、情報発信などに至るまで地域担当者が業務を管轄します。現地語研修や海外出張、2 年間の海外勤務などを経て、現地語、現地事情、現地資料に関する知識を磨いています。アジア経済研究所の研究会にも参加して、研究動向の把握や研究者との情報交換を通じて選書に役立っています。図書館システムやウェブなどの専門知識を要する業務についてはシステムに強い人材を採用し情報発信体系を構築しています。これらの知識や実績はアジ研機関誌や外部機関誌などへの執筆を通じて広く一般に公開しています。資料展示会・講演会は年に 5 回程度開催しています。今年度は一橋大学図書館や東京大学駒場図書館でブックトークを開催しました。



外部機関との連携

相互の学術研究等の活動の支援に寄与することを目的として、2012 年度から各大学図書館と図書館協同利用制度を締結し連携を図ってきました。現在 12 機関と締結していて、2016 年 4 月からは新たに 2 機関と締結する予定です。主なサービスである個人貸出を開始したことで、締結機関の来館者数は増加しています。



情報発信

1990 代後半から各国の政府情報などが電子化されウェブで発信されるようになりアジア経済研究所図書館でも非来館型の図書館サービス、電子図書館の構築の強化に取り組むことになりました。大きなきっかけとなったのが幕張へ移転したことで利用者が激減したためです。開発途上地域研究に関するポータルサイトを構築し、その中で研究成果と図書館が集積した貴重資料や情報を有機的に統合し提供していくことが大きな目的となっています。

図書館見学

「図書館ネットワーク協議会第 2 回研修会に参加して」

千葉市教育センター

長谷川 恭子

“1 階から 4 階までらせん階段で行き来することができ、とても優雅な空間”

平成 28 年 3 月 3 日、アジア経済研究所図書館にて、図書館ネットワーク協議会第 2 回研修会が行われました。

海浜幕張地区にそびえる近代的で美しい外観に、まず驚かされました。研修会は、アジア経済研究所図書館職員、

二階宏之氏による事例報告と施設見学の 2 部構成でした。研究者としての誇りと研究の楽しさが伝わってくる内容でした。

1 事例報告「開発途上国地域研究を支える専門図書館—アジア経済研究所図書館の資料収集と提供活動—」

①アジア経済研究所図書館の沿革

1958年、財団法人として新大手町ビルにアジア経済研究所が設立され、その翌年に「図書資料部」が設置されました。1963年市ヶ谷に移転した後、1998年日本貿易振興会と統合し、1999年幕張に移転しました。そして、2003年、独立行政法人日本貿易振興機構が誕生し、「アジア経済研究所図書館」となりました。なお、市ヶ谷から幕張に移ったときから、閉架ではなく、開架になりました。



②アジア経済研究所図書館の使命

開発途上地域研究の資料センターとしての役割を担い、
・途上国地域の社会科学分野の資料の収集
・調査研究活動等を資料・情報の面から支援すること
・開発途上地域の資料センターとして大学・研究機関、政府、企業、国民へ提供すること

を使命感を持って行っています。

③アジア経済研究所図書館の特徴

開発途上地域研究の専門図書館であり、社会科学分野の学術図書や学術雑誌がそろっています。また、現地語で書かれた新聞・雑誌・統計資料、政府刊行物なども収集し、保管しています。57年間開発途上国の本に特化し収集を続け、67万冊となります。

④資料収集

資料収集に関しては、寄贈・交換によるものから、現地で購入するものまで様々で、現在、現地でも手に入らないものまで所有しています。54,000枚におよぶ地図も所蔵しています。

⑤収集や研究成果の発表

資料収集や研究成果を広く伝えていくために、年に数回、資料展示会や講

演会を行っています。

⑥電子図書館システム

非来館型の図書サービスの拡充と研究成果の電子的なウェブ発信の必要性から、電子図書館システムを導入しています。

2 施設見学

まず、荷物をコインロッカー(無料)に収納し、見学者を2グループに分けて、最上階から下へ、1階から上へと順番に案内していただきました。



4M

4階の上のスペースで、蔵書が増えて入りきらなくなったために増設した階でした。ここは、日本・欧米の統計資料と1998年9月以前に受け入れた和書を中心に配架されていました。以前は統計資料を扱う部署があつて管理されていましたが、現在は行っていません。いくつかの統計資料を合本し書籍として数えているということでした。書棚の近くに進むと自動で照明が灯されるような仕組みになっていました。奥には、各国からの新聞が束になって保存されていました。



4階

雑誌を数冊集めて製本して保管されていました。書棚の開閉はコンピュータで管理されており、要所となるところに感知器があり、人をはさまないような危険防止システムがしっかりしていました。調べものをしたり、ゆったりと本を読んだりするスペースもあります。アジア・アフリカ諸言語の本が、国別テーマ別に整然と配架されています。見学はしませんでした、プロ

ジェクタ、スクリーンを利用できるグループ学習室もあります。事前予約をすると使えるそうです。



3階

統計資料と1998年9月以前に受け入れた洋書があります。

2階

1998年10月以降に受け入れた和洋図書があります。また、新聞の束が閉架書庫にありました。薄緑色の新聞はインドのもので、他にも薄桃色の新聞もあり、各国の特徴が感じられました。保存場所の確保が難しいそうです。

もう一つの閉架スペースには、地図が保管されていました。酸性紙なので、傷みやすいのが悩みの種だそうです。たくさんの地図が地域別に保管されていました。フィルムコートされたものも多く、大切にされていました。ソビエト連邦時代のロシアの地図もありました。閉架ですが、手続きをすれば閲覧が可能だということでした。

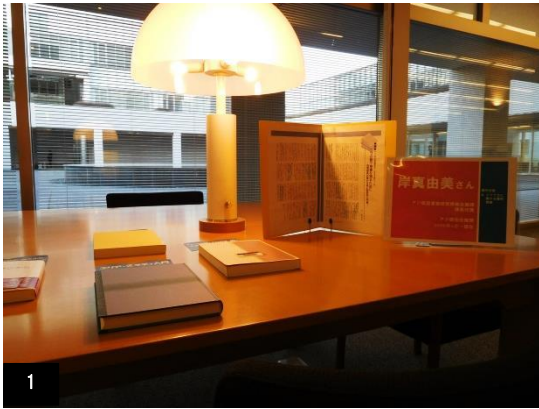
1階

落ち着いた雰囲気、ソファや雑誌架、お薦めの本を展示しているスペースがあり、たいへん美しくコーディネートされていました。最近の新聞を置いてある新聞架もあります。中央吹き抜けが贅沢で、開放感が漂っています。外国の書物ばかりではなく、日本の書物もあります。

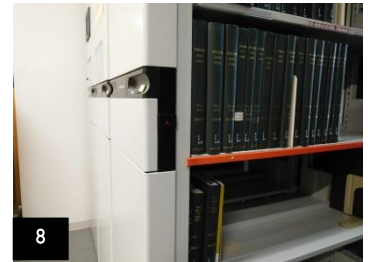
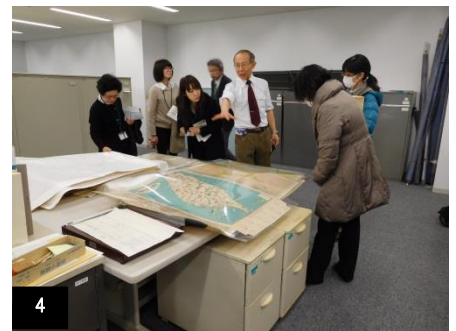
マイクロフィルムの保管してある閉架にも案内してもらいました。劣化の対応が課題だそうです。新聞もマイクロフィルム化して保管しているとのことですが、現在は16紙に限定しているそうです。

エレベーターもありますが、1階から4階までらせん階段で行き来することができ、とても優雅な空間でした。

誰でも利用できるということで、おしゃれなカフェテリアもあります。平日と第1・3土曜日の10時から18時まで開館しているということなので、今度、ぜひ訪れたいと感じる魅力的な図書館でした。



1/資料展「アジア研究読書案内ー研究の原点を読むー」(1階閲覧室) 閲覧机に資料を展示するという、目を引く展示が印象的 2/資料展「アジア研究読書案内ー研究の原点を読むー」(1階閲覧室) アジア経済研究所の研究者たちの研究の出発点となった様々な分野の本(約80冊)を、研究者のコメントを添えて展示 3/各種データベース、マイクロフィルム、AV資料閲覧席 4/地図庫 5/2階新聞庫 2 6/図書館の真ん中には、1階から4-1階まで開放感のある吹抜けがあり、見晴らしが良い 7/貴重書の可動式書架 8/可動式書架。書架には感知器があり、人を挟まないよう危険防止システムがある 9/閲覧席、OPAC。各フロアにゆったりと読書ができる閲覧席がある 10/4階書架。アジア各国の資料が並ぶ。なかには現地でも珍しい貴重資料もあるとのこと 11/古いものから新しいものまで、各国の統計資料が揃う。現地を知る上で貴重な統計資料が豊富に揃っているのは、なかなか珍しいとのこと



**日本貿易振興機構
アジア経済研究所図書館データ**

所在地:千葉市美浜区若葉 3-2-2
 TEL:043-299-9716
 FAX:043-299-9734
 開館日時:月~金、第1・3土 10:00-18:00
 休館日:第2・4・5土曜日・日曜・祝日・毎月最終日、
 年末年始
 利用対象:どなたでも無料でご利用できます。
 その他:【閲覧】可:小学生以下は保護者同伴、入館
 票の記入
 【貸出】賛助会員は可
 【複写】セルフ10円、スタッフ30円、カラー80円
 【座席数】閲覧席100席
 日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館 HP:
<http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/>



千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。
 このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行している。

Network通信 No.48 2016年3月31日発行
 千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局:
 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7 千葉市中央図書館内
 TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074
 千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP:<http://www.ccal.jp/>

